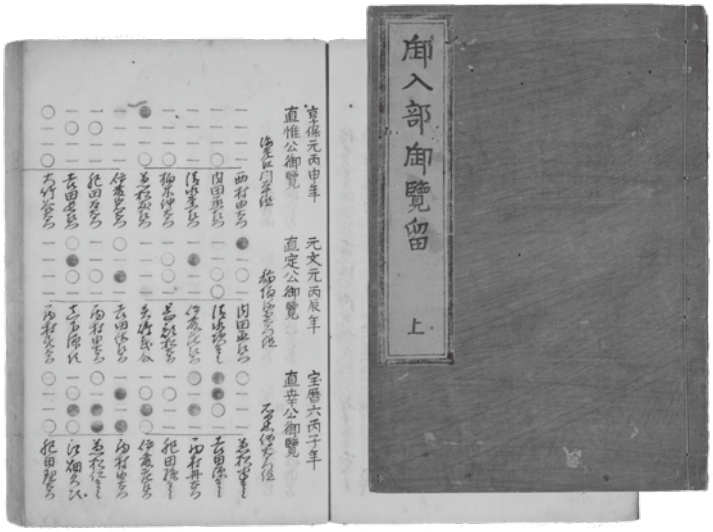
彦根城博物館だより 137

Hikone Castle Museum News
2022.6.1

企画展

彦根藩の足軽
―歩兵たちの近世―

2022年
7/23(土)
～
8/31(水)



御入部御覧留

当館蔵（購入資料）

井伊家十二代当主直亮の入部（藩主として初めて国入りすること）に際し、歴代当主が入部儀礼として上覧した足軽の武芸稽古の様子を、彦根藩士の増嶋高実が写し留めた記録。全二巻からなり、文化九年（一八一二）十月に作成された上巻には、七代直惟・八代直定・十代直幸の時に披露された弓と鉄砲の結果が記されています（それぞれ写真上段・中段・下段）。各足軽の試技結果が「―」（的から外れる）、「○」（的に命中）、「●」（的の中央に命中）の三段階で表されました。藩主と足軽が公的に初めて対面する儀礼の実態がうかがえるとともに、各時期における足軽組の構成員全体も判明する大変貴重な史料です。

展覧会情報

テーマ展
軍記物語の世界
―語り継がれる名場面―
5月18日 ▼ 6月20日

テーマ展
能を彩る道具
―小道具と作り物―
6月23日 ▼ 7月20日

企画展
彦根藩の足軽
―歩兵たちの近世―
7月23日 ▼ 8月31日

展示案内

2022年6月～2022年8月

常設展示 ”ほんもの“との出会い

―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

5/18（水）～6/20（月）

軍記物語の世界

―語り継がれる名場面―

平家物語に代表される、戦を題材とした軍記物語。これらは、読み物や語り物として楽しまれるほか、物語に描かれた登場人物の武勇や悲話など、さまざまな場面が美術工芸品の意匠、あるいは能などの芸能に取り入れられていきました。本展では、軍記物語にまつわるさまざまな作品を、館蔵品の中から紹介します。

平治物語

宇治川先陣図小柄（部分）

◉スライドトーク◉

■日　時　5月21日（土）14時～（30分程度）
■講　師　古幡 昇子（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）

テーマ展　展示室1

6/23（木）～7/20（水）

能を彩る道具

―小道具と作り物―

能において、中啓（ちゅうけい）をはじめとする小道具や舞台に据（す）える作り物は、面（おもて）や装束（しょうぞく）とともに、演目の内容や登場人物の役柄を象徴する、上演に欠かせない重要な道具です。上演のたびに新たに作られる作り物に対して、小道具は様々な種類の道具を常備し、演目や演出に応じて使い分けます。本展では、井伊家伝来の小道具や古文書を通して、能を彩る道具の意味や役割を演目とともに紹介します。

赤地牡丹唐草図中啓

◉スライドトーク◉

■日　時　6月25日（土）14時～（30分程度）
■講　師　茨木 恵美（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）

企画展　展示室1・2

7/23（土）～8/31（水）

彦根藩の足軽（あしがる）

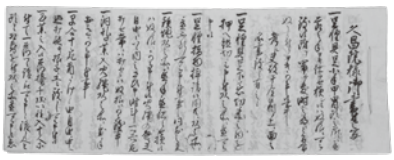
―歩兵たちの近世―

戦乱の世に鉄砲や弓などで戦った歩兵の足軽。太平の世となった江戸時代、彦根藩ではおよそ千人を超す足軽を弓組（六組）と鉄砲組（三十一組）に編制して召し抱え、善利橋（せりばし）や中藪（なかやぶ）など城下の外曲輪（そとくるわ）に屋敷を与えて集住させました。

日々の彼らは、兵士として求められる弓術や砲術などの軍事鍛錬、武具の管理などに努めるばかりではなく、夜廻りや火消し番などの城下の治安維持をはじめ、彦根城の石垣普請や町奉行所の役人を勤めるなど、様々な用務に従事し、藩政を下支えする実務者としての役割も果たしました。また、中には画人として注目されるなど、多方面に活躍する者も現れます。

そして軍事的緊張が高まった幕末維新期、彦根藩の足軽は活躍の場を再び戦場に移し、藩兵としての役割を担ったほか、西洋軍式を導入した新たな軍制の担い手として台頭する者も現れました。

本展では、古文書や足軽の家に伝来した甲冑や鉄砲をはじめとする所持品などから、近世における彼らの多様な実態を紹介し、その特質に迫ります。



井伊直孝御書付之写（個人蔵）

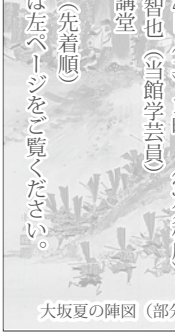
足軽組諸届・願書留（個人蔵）

火縄銃（個人蔵）

◉スライドトーク◉

■日　時　7月23日（土）14時～（30分程度）
■講　師　北野 智也（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　35名（先着順）

＊関連イベントは左ページをご覧ください。



大坂夏の陣図（部分）

研究余録

金亀玉鶴

彦根藩による飛脚利用

江戸時代、現在の郵便に近い役割を担っていたのが飛脚です。徳川幕府が成立し、五街道や宿場が整備されると、飛脚の制度も整っていきます。飛脚には、幕府が設けた公用飛脚や、大名が独自に組織した大名飛脚、民間業者による町飛脚などがありました。

彦根藩では、藩が独自に組織した「御飛脚」（大名飛脚）と、町飛脚を活用していました。彦根藩の御飛脚は、二人組を基本とし、中間（武士に仕えて雑務を担った者）などがその役を担っていました。彼らは頻繁に江戸と彦根を行き来しており、例えば、井伊家当主等の側近くに仕えた側役の業務記録である「側役日記」（彦根藩井伊家文書）には、「御飛脚」と「町飛脚」の語が頻繁に見られます。しかし、同日記に現れる飛脚の記事は、その発着に関するものがほとんどで、詳細は記されていません。

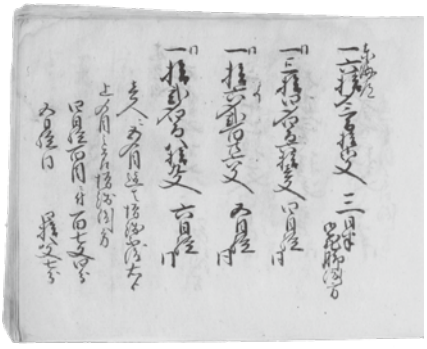
そこで今回は、彦根藩が活用した飛脚の料金等の規定が記された、旧彦根藩士の孕石備前家に伝わる「御飛脚御荷物并町飛脚一式」（以下、「一式」）という資料をみてみましょう。内容は文政五年（一八二二）のものと比定され、この資料が孕石家に伝わったのは、当時、九代目当主の泰都が賄役に就いていたからだと思われます。賄役は、藩主や奥向きに食糧を供給する役職ですが、飛脚の差配やその料金の支払いなども受け持っていました。

「一式」によると、飛脚が目的地に着くまでの所用日数などに応じて料金が変わります。「御飛脚」の運ぶ荷物は五貫目（約二〇キログラム）までが基本で、目的地に着くまでの日数などにより料金が変わります。「四日経」の飛脚便の料金は、銭で表記されているのを換算すると、東海道経由は金約五両一分、中山道経由は金約五両三分（金四分で金一両となります）。比較対象や時代によっても変動するので一概にはいえませんが、金一両は現在の金額で十万円に相当するという計算もできますので、現在の感覚からすると、相当な高額であることがわかります。町飛脚については、若狭屋忠右衛門が出入りの飛脚だったことがわかります。四日経飛脚の料金は五両余りと、料金の点で御飛脚とあまり差はありません。

また、町飛脚の場合、送り先と同じ方向に行く人に荷物や手紙を託す、幸便についても規定されており、一番所要日数の短い便が六日経、その料金は金一両余りと、通常の飛脚に比べて安価に設定されています。町飛脚幸便の出立時刻についても記されていて、九つ時（深夜零時頃）に出立するので、遅くても四つ時（夜十時頃）には飛脚に荷物を渡すこと。遅れると、「追掛飛脚」を差立てることになり賃銀がかかると記されています。荷物を渡しそびれた際に、先行した飛脚を追いかける飛脚も存在したことがわかります。他に、町飛脚の休日は「三・五・七・十」のつく日と定められており、各月の出立の日や、お盆前に上方に飛脚が着くための並便は六月二十九日を出立の期限とするなども定められています。

「一式」から、彦根藩が御飛脚について、目的地までの所要日数等に応じた料金を定めるとともに、民間業者である町飛脚も、自ら料金や稼働日数などについて細かく定めていることがわかります。彦根藩は、これら二種類の飛脚を併用することで、多くの物や情報をやりとりしていたのです。

（竹内光久）



御飛脚御荷物并町飛脚一式（部分）

企画展関連イベント

【彦根辻番所の会 共催】

1 現地見学会

「彦根市指定文化財　足軽組屋敷をめぐる」

現在も残る彦根藩足軽の組屋敷を特別に公開し、現地見学会を開催します。

■日時　8月6日（土）
第一部：9時～10時30分
第二部：11時～12時30分
＊一部と二部は同内容です。

■会場　旧彦根藩足軽組辻番所（彦根市芹橋二丁目）ほか

■参加費　300円（保険料・資料代）

■定員　各部15名（応募者多数の場合は抽選）

2 シンポジウム

「彦根藩足軽の実態と特質 ―萩藩との比較から―」

足軽研究をリードする研究者を招き、萩藩の足軽との比較を通じて、彦根藩足軽の特徴に迫るシンポジウムを開催します。

■日時　8月20日（土）　13時～16時30分

■会場　当館能舞台正面見所

■講師　森下 徹（山口大学）、渡邊 弘俊（彦根辻番所の会）、北野 智也（当館学芸員）

■受講料　500円

■定員　65名（応募者多数の場合は抽選）

1、2共通事項

■申込み方法　いずれかの方法で申込み。
①彦根市電子申請サービスから申込み。
②往復はがきの往信の裏面に、住所・氏名・電話番号を、返信の宛名欄に住所・氏名を明記の上、1は当館「足軽組屋敷現地見学会」係、2は当館「シンポジウム」係に郵送（各1人1通）。
＊1の申込みは、第一部か第二部のいずれか一つを選択してください。

■申込み期間　6月1日（水）～7月19日（火）＊必着

スケジュール 6月～9月

6月

- 4土 講座 私の研究最前線「二十歳の直弼、江戸へゆく」
- 11土 教室 古文書のみかた②
- 18土 講座 私の研究最前線「井伊直亮の雅楽器収集 ―一大コレクションの形成―」
- 21火 休館
- 25土 スライドトーク 能を彩る道具 ―小道具と作り物―

テーマ展
軍記物語の世界
―語り継がれる名場面―
5/18～6/20

テーマ展
能を彩る道具
―小道具と作り物―
6/23～7/20

6/20、22 展示替により一部休室

7月

- 2土 教室 古文書のみかた③
- 16土 教室 古文書のみかた④
- 23土 スライドトーク 彦根藩の足軽 ―歩兵たちの近世―
- 31日 教室 キッズサマースクール

企画展
彦根藩の足軽
―歩兵たちの近世―
7/23～8/31

常設展示 “ほんもの”との出会い

7/21・22 展示替により一部休室

8月

- 6土 現地見学会 「彦根市指定文化財 足軽組屋敷をめぐる」
- 20土 シンポジウム 「彦根藩足軽の実態と特質 ―萩藩との比較から―」
- 27土 教室 古文書のみかた⑤

9月

- 1木～7水 休館
- 10土 スライドトーク 源氏物語―古典の継承と展開― 松居石材商店の歴史
- 17土 講座 「松居石材商店からみる近代彦根」
- 24土 教室 古文書のみかた⑥

テーマ展
源氏物語
―古典の継承と展開―
9/8～10/5

特集展示
松居石材商店の歴史
9/8～10/4

＊「古文書のみかた」は事前申込制です。

募集

◉キッズサマースクール「オリジナルの巻物をつくろう」◉

巻物のつくりや特徴について学び、オリジナルの巻物を作ります。

■日時　7月31日（日）
1～3年生：13時30分～15時30分
4～6年生：10時～12時

■場所　当館講堂、展示室

■講師　当館学芸員

■参加費　500円（保険料・材料代）

■定員　1～3年生、4～6年生：各20名
（応募者多数の場合は抽選）

■対象　原則として彦根市、米原市、愛荘町、甲良町、多賀町、豊郷町に在住もしくは在学する小学生

■申込み方法　①②いずれかの方法で申込み。
①彦根市電子申請サービスから申込み。
②各小学校に配布するチラシに印刷した申込用紙に必要事項を記入し、博物館に持参もしくは郵送。

■申込み期間　6月1日（水）～24日（金）
＊必着

◉講座 私の研究最前線◉

■日程・演題・講師
①6月4日（土）「二十歳の直弼、江戸へゆく」
渡辺恒一（当館学芸員）
②6月18日（土）「井伊直亮の雅楽器収集 ―一大コレクションの形成―」
髙木文恵（当館学芸員）

■時間　14時～15時30分

■場所　当館講堂

■定員　各35名

■資料代　各100円

■受付　当日受付
（先着順、受付開始13時30分～）

刊行物

◉彦根藩史料叢書・研究紀要◉

1『彦根藩史料叢書 侍中由緒帳』第17巻

■内容　彦根藩士各家の詳細な履歴を記した「侍中由緒帳」（彦根藩井伊家文書）。本巻には、数十石クラスの中級藩士二十二家と騎馬徒二十八家を収録しています。

■体裁　A5判、412ページ

■価格　3800円

2『彦根城博物館研究紀要』第32号

■内容　「資料翻刻「楽器類留」続　弾きもの」髙木文恵・渡辺恒一（当館学芸員）、「資料翻刻　五十嵐半次家文書中の大坂の陣関係史料」早川駿治（当館学芸員）

■体裁　B5判、80ページ

■価格　1000円

＊当館ミュージアムショップにて購入いただけます。郵送をご希望の方は、ミュージアムショップ(0749-22-6100)へお問い合わせください。

◆休館のお知らせ◆

展示室の環境整備のため休館いたします。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

【休館期間】9月1日（木）～7日（水）

現在、開催を予定している展示・講座等は、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により、中止となる場合があります。最新の情報は、彦根市や当館のホームページ、ツイッター等でご確認ください。

Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061　滋賀県彦根市金亀町１番１号
TEL 0749(22)6100　FAX 0749(22)6520
https://hikone-castle-museum.jp/

この印刷物は6000部作成し、印刷単価は約15円です。